



SRST の設定

- [Survivable Remote Site Telephony の概要 \(1 ページ\)](#)
- [Survivable Remote Site Telephony の設定タスクフロー \(2 ページ\)](#)
- [SRST の制限 \(6 ページ\)](#)

Survivable Remote Site Telephony の概要

Survivable Remote Site Telephony (SRST) は、Unified Communications Manager ノードとのワイドエリアネットワーク (WAN) 接続に依存するサイト用のオプション機能です。SRST リファレンスは、Unified Communications Manager 管理インターフェイスで構成されています。WAN の故障が発生した場合、IP ゲートウェイは、次のようにリモートサイトの IP 電話に限定されたテレフォニーサービスを提供することができます。

- リモート サイトの IP 電話は互いにコールできます。
- PSTN からのコールは IP 電話に到達できます。
- IP 電話からのコールは PSTN を介して外部に到達できます。

リモート サイトの電話が、関連付けられているすべての Unified Communications Manager ノードに接続できない場合、SRST リファレンスの IP ゲートウェイに接続します。IP 電話のステータス行には、IP 電話がバックアップ SRST ゲートウェイにフェールオーバーしたことが示されます。Unified Communications Manager への接続が復元されると、Unified Communications Manager と完全なテレフォニーサービスに再登録された IP 電話が復元されます。

SRST は、PSTN ゲートウェイ アクセスに加えて、SCCP および SIP エンドポイントが混在している可能性があるリモート サイトをサポートします。

接続モニタ間隔

ワイドエリアネットワーク (WAN) を介して SRST ゲートウェイに接続する IP 電話は、WAN リンクを介した Unified Communications Manager との接続を確立できると直ちに Unified Communications Manager に再接続します。ただし、WAN リンクが不安定な場合、IP 電話は SRST に切り替えたり、Unified Communications Manager に切り替えたりします。このため、電話サービスが一時的に失われます (ダイヤルトーンが聞こえません)。このような再接続の試

行は、WAN リンク フラッピング問題と呼ばれ、IP 電話が Unified Communications Manager に正常に再接続するまで続きます。

Unified Communications Manager と SRST ゲートウェイの間での WAN リンク フラッピングの問題を解決するために、IP 電話が Unified Communications Manager から SRST ゲートウェイを登録解除して再登録するまでに、IP 電話が Unified Communications Manager との接続をモニターする秒数（接続モニター間隔）を定義することができます。IP 電話は、XML 構成ファイルに指定された接続モニター間隔の値を受信します。

Survivable Remote Site Telephony の設定タスクフロー

始める前に

ダイヤルプランを検証します。ダイヤルプランに 7 か 8 桁の数字があるとき、場合によりトランスレーションルールを設定する必要があります。トランスレーションルールの詳細については、「[変換パターンの設定](#)」を参照してください。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	SRST 参照の設定 (3 ページ)	他のすべての Unified Communications Manager ノードに到達できない場合に、制限付きのコール制御機能を提供するゲートウェイを設定します。
ステップ 2	デバイスプールへの SRST リファレンスの割り当て (3 ページ)	各デバイスプールに対して、Unified Communications Manager を使用できない場合に、コールの完了を試みる発信側デバイスが検索するゲートウェイを割り当てます。
ステップ 3	次のいずれかの操作を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • クラスタの接続モニター期間の設定 (4 ページ) • デバイスプールの接続モニター期間の設定 (4 ページ) 	任意： 接続モニター期間を設定します。クラスタ全体のデフォルト値を適用することも、デバイスプール内のデバイスに設定を適用することもできます。
ステップ 4	SRST ゲートウェイでの SRST の有効化 (5 ページ)	ゲートウェイで SRST パラメータを設定します。

SRST 参照の設定

SRST リファレンスは、デバイスのその他すべての Cisco Unified Communications Manager ノードが到達不能の場合に、Cisco Unified Communications Manager の一部機能を利用できるゲートウェイで構成されます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration にログインし、[システム (System)] > [SRST (SRST)] を選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 3** [SRSTリファレンスの設定 (SRST Reference Configuration)] ウィンドウの各フィールドを設定します。フィールドと設定オプションの詳細については、システムのオンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

デバイスプールへの SRST リファレンスの割り当て

電話機の各デバイスプールに SRST を設定できます。デバイスプールに SRST リファレンスを割り当てると、デバイスプールのすべての電話機が、Cisco Unified Communications Manager のノードに到達できない場合、割り当てた SRST に接続を試みます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)] を選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックし、リモート IP 電話が登録されているデバイスプールを選択します。
- ステップ 3** [ローミングに合わせて変化する設定 (Roaming Sensitive Settings)] エリアの [SRST リファレンス (SRST Reference)] ドロップダウンリストから SRST を選択します。

[SRST リファレンス (SRST Reference)] ドロップダウンリストには次のオプションがあります。

- [無効 (Disable)] : 電話機は、Cisco Unified Communications Manager のいずれのノードにも到達できない場合、SRST ゲートウェイへの接続を試みません。
- [デフォルトゲートウェイを使用 (Use Default Gateway)] : 電話機は、Cisco Unified Communications Manager のいずれのノードにも到達できない場合、IPゲートウェイをSRSTゲートウェイとして接続を試みます。
- [ユーザ定義 (User-Defined)] : 電話が任意の Cisco Unified Communications Manager ノードに接続できない場合、SRST ゲートウェイへの接続を試みます。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

クラスタの接続モニタ期間の設定

この手順は省略可能です。接続モニタ間隔のシステム値（エンタープライズパラメータ）を変更する場合だけ、この手順を完了します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] を選択します。
- ステップ 2 [接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)] フィールドに値を入力します。デフォルト値は 120 秒です。フィールドに入力できる最大秒数は、2592000 秒です。
- ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

(注) 変更を有効にするにはすべてのサービスを再起動する必要があります。

このエンタープライズパラメータには、接続モニタ期間に対するクラスタのデフォルトを設定します。ただし、それよりも優先される設定がデバイスプールに存在する場合、その設定が、デバイスプールを使用するデバイスのエンタープライズパラメータ設定よりも優先されます。

デバイスプールの接続モニタ期間の設定

この手順は省略可能です。この操作は、次の項目に該当する場合に限り実行します。

- 接続モニタの期間について、クラスタ全体の値を使用しない場合。
- このデバイスプールの接続モニタ期間の値を個別に定義する場合。



ヒント デバイスプールの接続モニタ間隔の値を変更する場合、値は更新されるデバイスプールだけに適用されます。その他すべてのデバイスプールは、各自の [接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)] フィールドの値を使用するか、[接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)] エンタープライズパラメータで設定されたクラスタ全体用の値を使用します。

手順

ステップ 1 Cisco Unified CM Administration から、[システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)] を選択します。

ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックし、リモート IP 電話が登録されているデバイスプールを選択します。

ステップ 3 [ローミングに合わせて変化する設定 (Roaming Sensitive Settings)] エリアで、[接続モニタ間隔 (Connection Monitor Duration)] フィールドに値を入力します。フィールドに入力できる最大秒数は、2592000 秒です。

(注) この設定は、エンタープライズパラメータの接続モニタ間隔設定をオーバーライドします。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

SRST ゲートウェイでの SRST の有効化

始める前に

- [デバイスプールへの SRST リファレンスの割り当て \(3 ページ\)](#)
- (オプション) 次のいずれかのタスクを実行します。
 - [クラスタの接続モニタ期間の設定 \(4 ページ\)](#)
 - [デバイスプールの接続モニタ期間の設定 \(4 ページ\)](#)

手順

ステップ 1 SRST ゲートウェイ (ルータ) にログインします。

ステップ 2 **Call-manager-fallback** コマンドを入力します。
このコマンドは、ルータの SRST を有効にします。

ステップ 3 **max-ephones max-phones** コマンドを入力します。ここで、max-phones は、サポート対象の Cisco IP Phone の最大数です。

ステップ 4 **max-dn max-directory-numbers** コマンドを入力します。ここで、max-directory-numbers は、ルータでサポートできる電話番号 (DN) または仮想化音声ポートの最大数です。

ステップ 5 **ip source-address ip-address** コマンドを入力します。ここで、ip-address は既存のルータ IP アドレスで、通常はルータのイーサネットポートのアドレスの 1 つです。
このコマンドにより、SRSTルータは、指定されたIPアドレスを介してシスコIP電話からメッセージを受信することができます。

SRST の制限

制限事項	説明
SRST リファレンスの削除	<p>デバイスプールまたはその他の項目によって使用されている SRST リファレンスは削除できません。SRST リファレンスを使用しているデバイスプールを特定するには、[SRST リファレンスの設定 (SRST Reference Configuration)] ウィンドウの [依存関係レコード (Dependency Records)] リンクをクリックします。システムで依存関係レコードが有効でない場合、[依存関係レコードサマリー (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。使用中の SRST リファレンスを削除しようとする、Unified Communications Manager にエラーメッセージが表示されます。現在使用中の SRST リファレンスを削除する前に、次のタスクのいずれかまたは両方を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 削除する SRST リファレンスを使用しているすべてのデバイスプールに別の SRST リファレンスを割り当てます。 • 削除する SRST リファレンスを使用しているデバイスプールを削除します。 <p>(注) SRST リファレンスを削除するときは、削除する SRST リファレンスが正しいかどうかを慎重に確認してください。削除した SRST リファレンスを元に戻すことはできません。SRST リファレンスを誤って削除した場合は、再作成する必要があります。</p>

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。